

設立趣旨書

川崎市は、工業都市として、また首都圏のベッドタウン、あるいは文教地区として発展し続けてきた。しかしながら、都市開発によって市民の生活が向上する一方、環境を如何に保全していくかが重要な課題となっている。

1982年に、川崎市青少年科学館が登録博物館に指定され、翌年、行政・専門家・市民の協働による「川崎市自然環境調査」が開始された。この長期にわたる調査の担い手として活動を始めた市民ボランティアが、今日の「かわさき自然調査団」である。

草木・鳥・昆虫・クモ・土壤動物・気象・地勢などに大きな関心を持つ様々な立場の市民、概ね100名が「かわさき自然調査団」を組織し、ボランティアとして活動してきた。

活動は、同科学館を拠点とし川崎市全域を調査の対象とし、自然の現状やその変化を記述することに努めてきた。川崎市域には、今でも多様で豊かな自然の生物相に出会える場所がいくつかある。これらの自然を如何に保全して後世に伝えるかは、私たちに課せられた大いなる課題であると感じている。

1983（昭和58）年の第1次川崎市自然環境調査に始まって第5次同環境調査まで、20年間にわたり、継続した調査を3~5年ごとにとまとめて、川崎市教育委員会として調査報告書を発行してきた。今年3月には、4年間にわたる第5次同環境調査をまとめ、初めて、膨大なデータをCD-ROMに記録して、報告書とした。

活動は、観察、採集、記録、標本作製、分類、分析、報告など多岐にわたり、自然科学各分野の専門家の協力を仰ぎ、同科学館と緊密な連携をとって成果を積み重ねてきた。専門家の指導で研鑽を重ねて高いレベルに達した団員は、同科学館の主催する自然観察会などの講師として川崎市の社会教育普及活動の一翼を担うまでになった。また、同科学館による市民のための展示、印刷物の刊行などにも協力し、同科学館と一体となって、自然環境調査、教育普及活動を進めてきた。蓄積したデータや動植物の標本は、永久保存されるべき市民共有の財産である。

また最近では、川崎市環境局緑政部などとの連携も深め、公園緑地の整備或いは維持管理という現場での調査或いは助言という活動も展開している。

豊かな環境の確保・保全は、これからの大都市における人間社会の潤いと活力のために必要不可欠であり、最も重要な政策課題となるであろう。この環境保全における公共的利益の担い手として非営利セクターを位置づける法的整備も進みつつある。私たち「かわさき自然調査団」は、こうした時代の潮流を踏まえて、今まで長期に渡って継続してきた調査研究活動に加えて環境保全に関連する様々な場面での計画に対して、積極的かつ自主的に、提案或いは提言するという活動を展開すべきと考えるまでに成長した。

これからは公共的利益のために、今までの蓄積を活かし、活動の幅を広げて、地域社会に貢献したい。その為に、特定非営利活動法人を設立する。

2003/8/17

Kawasaki Organization for Nature Research and Conservation



A Whisper of Nature

かわさき自然調査団と
一緒に、川崎の自然を
見つめていきませんか



特定非営利活動法人かわさき自然調査団

事務局 〒216-0002

川崎市宮前区東有馬1-1-26-702

電話 090-2171-7214

Email: npo@konrac.org

URL: <http://npo.konrac.org/>

<http://www.facebook.com/konrac2003/>

特定非営利活動法人
かわさき自然調査団

特定非営利活動法人かわさき自然調査団の概要

川崎市自然環境調査・

かわさき自然調査団の活動の始まり

1982年に川崎市青少年科学館が自然系博物館として登録されたのを契機に、川崎市域の自然を調査・記録するべく、市民ボランティアが募集され、科学館と専門家と市民の協働による自然調査が始まった。

この自然調査は継続的に実施し、第1次(1988/3)、第2次(1991/3)、第3次(1995/3)、第4次(1999/3)、第5次(2003/3)、第6次(2007/3)、第7次(2011/9)、第8次(2016/3) 調査報告書を発行しており、現在、今まで継続した調査活動の集大成として、川崎の生物相について纏め、冊子編集を目指して活動している。

生田緑地観察会

1998年頃から川崎市青少年科学館が主催する生田緑地観察会が始まり、このガイドを調査団が担当することとなった。

生田緑地観察会は現在、年間34回、日曜日に、植物、シダ植物、昆虫、クモ、野鳥、地層、里山の自然、まるごと生田緑地などを対象に、各班がガイドを担当して開催している。

特定非営利活動法人かわさき自然調査団となる

2003年11月26日、特定非営利活動促進法に基づくNPO法人として設立認証を得て、法人登記した。

生田緑地の谷戸の自然保全活動(水田ビオトープ班)

2004年、自然に手をつける活動を行う班として水田ビオトープ班を新設し、生田緑地の谷戸に田んぼを再生し同年10月にシンポジウム「市街地の中の里山『生田緑地』の自然をどう考え、どう保全するか」を開催し、気持ちの良い里山らしい景観づくりと在来の水辺の生物の棲息環境を保全する活動を始めた。

2004年10月～ ハンノキ林下湿地

2005年5月～ 2枚目の田んぼ再生

2006年5月～ 3枚目の田んぼ再生

2006年12月～ ハンノキ林保全

その後は、生田緑地の自然の水辺について在来の生物の棲息環境として保全する活動を展開している。



ミドリシジミ

里山の自然学校(水田ビオトープ班)

2005年5月、小学4～5年生を対象として、身近な自然を体験学習することで自然の見方や接し方を理解し、身近な自然を大切にすることに育ってほしいと願い、里山の自然学校を開校している。

今年は第14期生21名が参加し、①春の里山、②田植え③プールのヤゴの救出作戦、④ホテル観察、⑤夜の昆虫観察、⑥案山子づくりと生物調査、⑦夏の里山、⑧稲刈り、⑨脱穀、⑩秋の里山、⑪冬の里山の11プログラムを行う。

生田緑地ホテルの国(水田ビオトープ班)

2005年6月から生田緑地に生き残った川崎のゲンジボタルの保護のため、川崎市と協働して観賞マナーの向上を図るための活動「ホテルの国」を始めた。誰でも安全にホタルを観賞できるように、警備員を配置、案内サイン等を設置、ホテルの国からの招待状(案内パンフレット)、ホテル観察会、ホテル・ガイド・ボランティアのコーディネートなどを行い、今年は14年目となる。

生田緑地自然会議市民部会<愛称>里山倶楽部

生田緑地植生管理協議会は、2006年度に市民部会を設け、実際に現地を見て、考えて、合議による植生管理計画を作成し、「取り返しのつく範囲で、やってみて考える」を基本に、市民と行政の協働による植生管理を始めその事務局を当調査団が担当している。

植生管理協議会は2013年3月に自然会議に移行したが市民部会は愛称を里山倶楽部とし、生田緑地の自然保全活動を、市民が楽しいレクリエーションとして行える仕組みをつくり運営している。

2011年に新たに組み立てた里山倶楽部Aでは、生田緑地の雑木林の皆伐更新を自然発芽の実生を育てて実現した。

環境省モニタリングサイト1000里地調査

一般サイト・生田緑地調査

2008年6月に生田緑地を一般サイトに登録し、植物相、鳥類、哺乳類、ホタル、水環境、人為的インパクトの6調査を実施してきた。今年始まった第4期調査では人為的インパクト調査を止めた。



メールマガジンの配信

メールマガジン版図報(事務局担当、月1回)
生田緑地田圃通信(水田ビオトープ班担当、活動毎)
Newsletter from 里山の自然学校(同)
生田緑地里山倶楽部通信(同)
※配信希望の方はメールで事務局までお申し込みください。

受賞歴

2000/7 川崎市環境功労者表彰
2001/6 神奈川県環境保全功労者表彰
2001/12 安藤為次財団奨励賞受賞
2004/6 市民文化パートナーシップ
かわさき 2003年度顕彰事業受賞
2004/7 川崎市制80周年記念表彰
2004/10 川崎市社会功労賞(川崎市)
2005/3 平成16年度ボランティア活動奨励賞
(かながわボランティア活動推進基金21)
2005/10 神奈川地域社会事業賞
(神奈川新聞社、神奈川新聞厚生事業団)
2013/2 かながわ地球環境賞(神奈川県)
2015/3 公益財団法人日本自然保護協会主催
平成26年度日本自然保護大賞に、入選
2016/6 「地域環境保全功労者表彰」環境大臣表彰
2018/5 「緑の愛護」功労者国土交通大臣表彰

理事 7人

三島次郎(団長)、岩田芳美(事務局長)、吉田多美枝(植物班班長)、大貫はるみ(シダ植物班班長)、上西登志子(地学班班長)、岩田臣生(水田ビオトープ班班長)

班と班長

種子植物班、シダ植物班、昆虫班、クモ班、野鳥班、地学班、水田ビオトープ班、水辺調査班

団員 70人

入団手続

申込/ 事務局又は各班班長
手続/ ①入団申請書、②年会費 1,000円、団員証に貼付する写真を申込時に撮影させていただきます。

